Press Release

プリピクテ国際写真賞 東京展

『HOPE （希望）』

ジョアナ・ショウマリほか12名の作品を展示。
2019年12月12日(木)-28日(土)代官山ヒルサイドフォーラム

2019 年 12 月 12 日～12 月 28 日まで代官山ヒルサイド・フォーラムにて、国際写真賞プリピクテ「Hope（希望）」の展覧会を開催致します。この展覧会は世界約 13 カ国を巡回する展覧会で、第 8 回目となる今回は、東京を皮切りに巡回展がスタートします。先日 11 月 13 日にロンドンの V&A 美術館にて行われたセレモニーでは、第 8 回プリピクテの受賞者は、ジョアナ・ショウマリに決定したことが発表されました。

この展覧会では、受賞者を含め権威ある写真賞であるプリピクテ（賞金約1,100万円）にノミネートされた12名の写真家たちの作品を展示いたします。

開催概要

開催名　：　プリピクテ『HOPE(希望)』
開催日時：　2019年12月12日(木)～12月28日(土)　午前11時～午後7時
　　会期中無休　（23日は15:00終了、最終日は17:00終了）
会場　　：　代官山ヒルサイドフォーラム（東京都渋谷区猿楽町18-8）
　　（東急東横線［代官山駅］下車 徒歩3分）
URL　　：　http://jp.prixpictet.com/

オープニングレセプション

12月11日（水）午後6時～8時まで

＊オープニングレセプションにはプリピクテ代表であるスティーブン・バーバー氏が来日し、次回が第三回目となるプリピクテ・ジャパンアワードに関するアナウンスを行います。プリピクテ・ジャパンアワードはプルニエ財団の出資による地球のサステナビリティーに関する作品を制作する40歳以下の日本の写真家に対して送られる賞です。

第 8 回プリピクテの受賞者　**ジョアナ・ショウマリ**

Ça va aller 2016〜19 年

ジョアナ・ショウマリ　1974 年、コートジボワール生まれ、アビジャン在住

ジョアナ・ショウマリはコートジボワールのアビジャンを拠点に活動するビジュアル・アーティスト、写真家。モロッコのカサブランカでグラフィック・アートを学び、写真家としてキャリアを積む前は広告代理店でアート・ディレクターとして働いていた。主にコンセプチュアル・ポートレート、ミックス・メディア、ドキュメンタリー写真を制作する。

彼女の作品の大半は、アフリカと自分の周辺の無数の文化に焦点が置かれている。最新作では、写真に直接刺繍を施し、写真イメージの創作という行為をゆっくりした瞑想のような動作でもって完成させている。

作品はアビジャンの文明博物館、現代美術ドンワヒ財団、ロトンデ現代美術センター、バーゼルのヴィトラ・デザイン・ミュージアム、マラケシュの MACAAL、セネガルのセントルイス写真美術館、アムステルダムのトローペン美術館、バマコ写真ビエンナーレ、パリのケ・ブランリ美術館で開催されたフォトケ・ビエンナーレ、フランスのブラシェール財団、ケープタウンのツアイツ・アフリカ現代美術館で展示されている。

2014 年に Cap Prize とレンズカルチャー・エマージングフォトグラファー・アワードを受賞。2016 年にマグナム財団より Emergency Fund Grant と南アフリカの Fourthwall Books Award を受賞。2017 年には、第 57 回ベニス・ビエンナーレのアイボリー・コーストのパビリオンで「Translation and Adorn（翻訳と装飾）」を展示した。

『HOPE』展示作家一覧

シャヒダル・アラム 1955年バングラデシュ生まれ、ダーカ在住
ジョアナ・ショウマリ 1974 年、コートジボワール生まれ、アビジャン在住
マーガレット・コートニー＝クラーク 1949 年ナミビア生まれ、スワコプムント在住
レナ・エフェンディ 1977 年バクー生まれ、イスタンブール在住
ルーカス・フォグリア 1983 年アメリカ生まれ、サンフランシスコ在住
ジャネル・リンチ 1969 年アメリカ生まれ、ニューヨーク在住
ロス・マクドネル 1979 年アイルランド生まれ、ニューヨーク在住
ギデオン・メンデル 1959 年南アフリカ生まれ、ロンドン在住
イボール・プリケット 1983 年アイルランド生まれ、ヨーロッパと中東を拠点に活動
ロビン・ロード 1976 年南アフリカ生まれ、ベルリン在住
アヴォイスカ・ヴァン・デル・モレン 1972 年オランダ生まれ、アムステルダム在住
アレクシア・ウェブスター 1979 年南アフリカ生まれ、ニューヨーク在住

■第 8 回 Prix Pictet の審査委員会

SYSTEMIQ Limited アフィリエート・パートナーでルワンダ大統領上級戦略アドバイザーのサー・デービッド・キング（審査委員長）、ロンドンのヴィクトリア＆アルバート博物館写真部門シニア・キュレーターのマーティン・バーンズ、写真家で第 7 回 PrixPictet 受賞者のリチャード・モス、前 Pictet グループマネージングパートナーのフィリップ・ベルセラット、フィナンシャル・タイムズアートディレクターのジャン・ダレー、ロンドン・ビジネス・スクール教授（組織行動学）のヘーミニア・イバラ、メトロポリタン美術館写真部門キュレーターのジェフ・ローゼンハイム、SANAA 共同創設者でプリツカー賞を受賞した建築家の妹島和世、以上のメンバーで構成されています。
審査委員長のサー・デービッド・キングは「私たちは会長のコフィ・アナンの影響力に深く感謝しながら、今年の Prix Pictet の最終選考者を選びました。今回の Prix Pictet のテーマである『希望』は、彼の個人的な関心事に真正面から取り組んでいます。私たちはイメージに溢れた世界において、優れた写真家の深甚な洞察というものが、直面する環境問題の緊急性をこれまでにないほど人々に痛感させることになると考えています」と述べています。

■審査プロセス

Prix Pictet はある一つのテーマに関連するグローバルな環境問題についての重要なメッセージを伝える写真を発掘する目的で始まりました。Prix Pictet へのエントリーは推薦制です。推薦者は、主要美術館やギャラリーのディレクターやキュレーター、ジャーナリストや批評家などヴィジュアル・アートの専門家たちです。彼らは Pictet グループが求める、力強さと高い芸術性を持つ写真を探し、最大 5 名まで指名することができます。
推薦された候補者は、賞のテーマを明確に表現した作品のシリーズ（10 枚未満）を提出します。写真の提出は、Prix Pictet のウェブサイトにある各アーティストの専用ページにアップロードすることで完了します。全ての写真が提出されると、Prix Pictet の審査委員会が初めはオンラインで、次に会議で作品を審議します。審査委員会はサステナビリティーや賞のテーマに関する問題に対する社会の認識に最もインパクトを与える写真を探します。
写真を審査する際に、主題や写真技法は判断基準になりません。審査員たちはその年のテーマに関する問題を伝えるために、写真という媒体を最大限に生かし、オリジナリティーをもって表現している作品を探します。
メッセージが伝わる写真であるか否かを判断するのに、写真家が著名であるということは関係ありません。一枚一枚の写真で表現するのか、シリーズで表現するのかのどちらを選択するのかは査定に関係します。最終的には、一貫したシリーズの方が有利になります。最終選考で写真家の数を絞る時、どうしてもいくつかの素晴らしい作品がもれてしまうことがあるため、毎年 teNeues よりカタログが出版されます。このカタログには、最終選考に残った作品についてのより多岐にわたる洞察が掲載されます。
卓越した写真が求められますが、審査員によって特定の写真の素材やテクニック、ジャンルが優先されることはなく、またそうした要素が審議の対象になることもありません。例えば、写真を使用したアーティストは、フォトジャーナリストやコマーシャル・フォトグラファー、写真が数多くあるツールの中の一つにしか過ぎない他分野のプロフェッショナルと全く同様に審査されます。実際のプリントを見ての査定が終わると、審査委員会は賞金 100,000 スイスフランを授与する Prix Pictet 最優秀賞の受賞者を選びます。受賞者は最終選考に残った写真家を紹介する展覧会のオープニングで発表されます。

■プリピクテについて

2008年にスイスのPictetグループによって創設されたPrix Pictetは、昨今の最も緊迫した社会問題・環境問題に寄与する優れた写真家たちの作品を展示し、世界的に高い評価を受けてきました。創設以来、約90名の世界的に活躍する写真家達がプリピクテの最終候補に選出されています。これまでの7名の最優秀賞受賞者は、ベノー・アキン(テーマ：Water＜水＞)、ナダフ・カンダー(Earth＜地球＞)、ミッチ・エプスタイン(Growth＜成長

>)、ルック・ドラエ(Power<権力>)、マイケル・シュミット(Consumption<消費>)、ヴァレリー・ベラン(Disorder<混乱>)リチャード・モス（Space<空間、宇宙>）です。
これまで7回開催されたプリピクテでは、4,200人近い写真家のノミネートがあり、世界各地の40都市で90以上の展覧会が開催されました。これまでに約50万人の人々がプリピクテの展覧会を訪れています。

サステナビリティ

グローバルに展開する資産運用・管理サービスを提供する Pictet グループは、環境、社会、企業ガバナンスにおける、サステナブルなビジネス理念に基づくことを目標にしています。
Prix Pictet は世界で生じる変化に対する私たちの理解をより深めるため、またそうした変化に対して直ちにアクションを起こす必要に迫られているという社会認識を高めるために、Pictet グループによって創設されました。

URL　：　http://www.prixpictet.com/

■特別企画

「Hope」音とアートの共鳴
Prix Pictet　x　上野耕平　サクソフォン・リサイタル　（100名様ご招待）

12月23日（月）、プライベート・ビューイングとサクソフォン・リサイタルの特別企画を開催します。
クラシック・サクソフォン界をリードし、新たな挑戦に止まない「上野耕平」（ピクテ・パトロネージュ・アーティスト）が、当展示会のテーマ「Hope」を掲げ選曲した作品を、アート空間で演奏する特別企画です。
また、リサイタルにご来場頂いた方限定のプライベート鑑賞のお時間を設けております。リサイタル前にゆっくりと作品をご観賞頂き、リサイタルでは音楽とアートの共鳴をお楽しみください。
皆さまのご来場を心よりお待ち申し上げます。
【日程】2019年12月23日（月）
【時間】18:00 開場、Prix Pictetプライベート鑑賞
　　19:00 リサイタル開演
【会場】代官山ヒルサイドフォーラム
※プログラムやタイトル、出演者は事前予告なしに変更となる場合があります。

【パトロネージュ・プロジェクトご紹介ページ】
https://www.pictet.co.jp/company/patronage/

■広報用・取材に関するお問い合わせ
TAIRA MASAKO PRESS OFFICE　（平）
〒151-0053 東京都渋谷区代々木5-15-10 #810
T/F 03-3468-8367 M 090-1149-1111